

阿智の有志 廃止求める会



「特定秘密保護法の廃止を求めるあちの会」を発足させた阿智村の有志ら

下伊那郡阿智村の住民有志が3日までに、「特定秘密保護法の廃止を求めるあちの会」を発足した。「国民生活を脅かすことになる法律を認めるわけにはいかない」との思いから反対の声を上げていくのが狙いで、地道に活動の輪を広げていく予定だ。

昨年12月の同法案の「採決強行」を受けて村民有志が「何か行動を起こそう」と話し合ったのがきっかけ。1月に法案の勉強会を村内で開いて賛同者を募った。2日夜に村中央公民館で開いた発足集会には20〜70代の約30人が参加。学習会をしたり廃止を求める署名活動をするなど、阿智村議会は昨年12月、同法成立後、廃止を求める意見書を全会一致で可決。会の呼

代表の姉妹 日本で見守る菊池悠希選手



今年の年賀状の写真に納まる菊池5姉妹。(左上から時計回りに)三女悠希選手、長女真里亜さん、次女彩花選手、四女萌水選手、五女純礼選手

悔しさ胸に活躍願う

国体のショートトラック成年女子1000メートル決勝に出場した菊池悠希選手。1月28日、栃木県日光市



「私は私で」故障明け奮起

信州発 エール ソチへ

次女でスピードスケートの彩花選手(26)と四女でショートトラックの萌水選手(21)と早稲田大がソチ冬季五輪代表に選ばれた南佐久郡南相木村の菊池家5姉妹は4人が現役選手。姉妹での五輪出場が話題となる中、ショートトラックの三女悠希選手(23)と立教大は度重なる故障もあって姉妹3人目の代表入りを逃した。悔しさを胸に秘めながらも、選手として再び奮い立ち、五輪での姉妹2人の活躍を見守る。

2012年12月。全日本選手権のレース中に転倒し、右足くるぶしの奥にある距骨を折った。年が明けた昨年1月に患部をボルトで固定する手術を受けたが、氷上練習を再開できたのは6月。ソチ五輪出場への目算が狂った。「脚が細くなっているのを感じて焦っていた」。急に練習量を増やしたことで太股裏も痛め、足踏みを強いられた。骨を折る直前まで、大学を休学して米国に5カ月間の競



ソチ記者

道行く人に声を掛け、ピンバッジを交換していた外国人＝五輪公園(本社 中村桂吾撮影)

ど用意した。ソチではカメラバッグに付け、毎日持ち歩いている。ソチではカメラバッグに付け、毎日持ち歩いている。多くのバッジが光っていた。日本の長野から来たと伝えらる、「オー、ナガノ」。1998」と女性。長野五輪が開催された年を知っていたことに親近感を覚えた。そして女性が差し出した「SOCHI 2014」のバッジと交換。冬季五輪を経験する一つの都市が繋がった気がして、心が温まった。あと3日ソチ五輪が開幕する。緊張して不安もあるが、こうした小さな喜びを感じながら大切に過ごしたい。一枚一枚の写真に心を込め、長野に届けようと思う。

一時は競技からの引退も考えた。だが、イタリアで行われたユニバーシアードで味わった感覚が背中を押してくれた。「上位に残った種目もあった。特徴も分からないような相手もいる世

ソチ五輪には、父で南相木村長の毅彦さん(57)や初恵さんが現地へ応援に赴くが、自分には日本にとどまる。「五輪には選手として行きたいから」。ただ、帰省して一緒に滑った時に滑りのビデオ撮影や技術的な助言で支えてきた彩花選手には、大舞台で力を出し尽くしてくれることを願う。リレーの補欠として五輪を迎える萌水選手には「間違いない次の五輪では重要な選手になる。感覚を研ぎ澄ませて学んできてほしい」。思いを託された2人が、初めての五輪に臨む。

下諏訪の中学校 調理員ノロ感染 給食休止 生徒感染なし 諏訪郡下諏訪町教育委員会(215人)の給食調理員の女性2人がノロウイルスに感染し、1月30日、31日、2月3

日給食を休止した、と発表された。4日は食材の仕入れが間に合わないためパンと飲み物だけを出し、5日から再開する。生徒への感染はない。2人のうち1人の感染が判明したのは30日。発表が4日後になったことについて、町教委は「生徒への感染がなく、集団的な感染でもなかったため」(教育ことも課)としている。町教委によると、30日午前勤務中の女性調理員が嘔吐などの症状を訴えた。調理員や近くにいた教職員ら計7人を検査したところ、この女性だけノロウイルス感染が判明した。生徒は3時間目が終わった後に下校させ、調理場を消毒した。1日、この調理員を除く計8人を再検査したところ、新たに1人の女性調理員の感染が分かったという。3日、このうち最も近くにいた3人にあらためて検査したが感染がなかったため、再開を決めた。2人は回復しているが、当面、自宅で療養する。生徒は31日、3日は弁当を持参した。町教委は「調理員に、手洗いと調理場の殺菌、消毒を徹底させたい」としている。